



「義経千本桜・すし屋」昭和五五年七月 歌舞伎座



「一谷嫩軍記・熊谷陣屋」昭和四七年二月 国立劇場（第六回春秋会）



「荒川の佐吉」昭和四六年二月 東横劇場

開学 30 周年記念事業

猿翁アーカイブにみる 三代目市川猿之助の世界

感動

第五回 フォーラム

三代目市川猿之助（二代目猿翁）さんから京都芸術大学（旧名称：京都造形芸術大学）に寄贈いただいた貴重な歌舞伎関係資料をもとに、三代目猿之助の軌跡をたどるフォーラムの5回目。今回は〈感動〉をテーマに、三代目猿之助と数々の創作をともにしたゆかりのお二人にお話いただきます。

※ 京都芸術大学開学 30 周年を記念して、フォーラム当日の開場～開演・幕間において、三代目市川猿之助による京都芸術大学での歌舞伎の実技実演指導（平成 5 年～）の様態をまとめたショート映像を特別上映します。※開場～開演と幕間では同じショート映像（15分程度）を上映します



2020年 10月17日（土）

13:15 開場 / 14:00 開演

京都芸術劇場 春秋座（京都芸術大学内）

無料 / 指定席 ※往復はがきにてお申込み下さい ※先着順

第1部

感動は驚きとともにやってきた
… 横内謙介（脚本家、演出家）

第2部

三代目猿之助が演じる感動の名作
～時代・世話・新歌舞伎
… 石川耕士（脚本家、演出家）

〈感動〉が生みだすもの

「泣き申さず候うては化かし申さず候う」

江戸時代中期の儒学者細井平洲のことばである。泣くほど感動して涙を流したときに、人は素直になって向上心が芽生え、考える力が生まれるという意味だ。

三代目市川猿之助（二代目市川猿翁）は本学創設者である初代理事長徳山詳直からこのことばを教えられたとき、腑に落ちるものがあった。祖父二代目猿之助（初代猿翁）から「人に感動を与える立場の者が自ら感動を知らないでどうするか。いい人に会い、いい芸術に触れなさい」と常々いわれてきたからである。感動させることが芸術であるという思いで歌舞伎と向き合ってきた三代目猿之助。

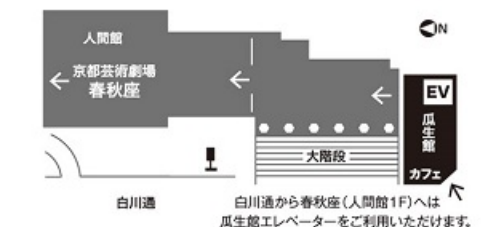
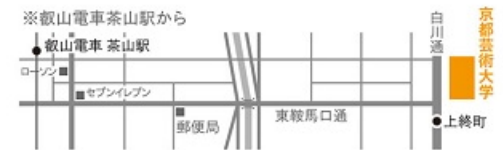
今回は、三代目猿之助が与えてくれた〈感動〉とはいかなるものであったのかについて考える。「感動を与える大学でありたい」と願った初代理事長と三代目猿之助の思いがひとつになってできあがった春秋座（京都芸術劇場）。「感動」は本学の理念を支える大切なことばでもある。

田口章子（企画 / 京都芸術大学教授）

三代目市川猿之助（二代目市川猿翁）

1939年（昭和14）生まれ。つねに「時代とともに生きる歌舞伎」をめざし、伝統の継承と創造に全身全霊をかけて走り続けている。「猿翁十種」をはじめとする家の芸の継承はもとより、『義経千本桜』『加賀見山再岩藤』などの古典歌舞伎の再創造、『菊宴月白浪』『競伊勢物語』などの古劇の復活、さらには『ヤマトタケル』や『新・三国志』シリーズなどのスーパー歌舞伎の創造まで、パワフルな活動はみごとに芸術的完成を見せる。現代歌舞伎に多彩で豊穡な成果をもたらしてきた演劇活動の中から「三代猿之助四十八撰」を制定した。歌舞伎にかけける熱い思いと革新的な発想は、三代目市川猿之助が育てた弟子たちにも確実に受け継がれている。平成24年新橋演舞場において、祖父が名乗った猿翁の名を二代目として襲名し、甥の市川亀治郎に猿之助の名を譲った。

京都芸術大学では、平成5年に芸術学部教授、平成12年～17年副学長に就任。集中講義では学生に歌舞伎の実技実演指導も行なった。同大の春秋座には徳山詳直前理事長とともに劇場の構想・設計から関わる。初代芸術監督として、柿落し公演の『日本振袖始』はじめ、数々の舞台を企画し出演した。



- JR・近鉄「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「京都河原町」駅から京都市バス5系統「岩倉」行きに乗り、「上終町京都造形芸大前」下車（「京都」駅から約50分、「三条」・「京都河原町」駅から約30分）
 - 京都市営地下鉄「丸太町」・「北大路」駅（北大路駅バスターミナル）から京都市バス204系統循環「高野・銀閣寺」行きに乗り、「上終町京都造形芸大前」下車（約15分）
 - 京阪電車「出町柳」駅から叡山電車に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩約10分
 - タクシーご利用の場合、「京都」駅から約30分。地下鉄「今出川」駅から約15分（「京都」～「今出川」は地下鉄で約10分）
- ※所要時間はあくまで参考としての標準時間です。天候や交通事情により変わりますのでご注意ください。
※駐車場はございませんので、お車・バイクでのご来場はご遠慮ください。

京都芸術劇場 検索

本学のこれまでの歩みと、現状の学問領域、大学30周年を契機として策定した将来構想「グランドデザイン2030」を踏まえて、その教育内容や活動に相応しい名称として、2020年4月1日に、学校法人瓜生山学園「京都造形芸術大学」から名称を変更いたしました。

お申し込み方法

入場無料（全席指定） ※座席は間隔を空けてご用意いたします

下記をご参照いただき必要事項を全てご記入の上、**往復はがき**にてお申し込みください。

※先着順・定員 350名

※2020年9月1日受付開始（定員に達し次第締め切ります）

[結果通知] 返信はがきを順次お送りいたします。座席番号をご確認ください。

〈往信表面〉〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

京都芸術大学舞台芸術研究センター
「猿翁アーカイブ・フォーラム」係宛

〈往信裏面〉①代表者ご氏名

（劇場友の会の方は会員番号、日本芸能史受講生の方は受講番号もご記入ください）

②ご住所（郵便番号含む）

③お電話番号（日中の連絡が可能なもの）

④ご同伴者有の場合：ご同伴者氏名（1名様まで）

*ただしお席が離れる可能性があります

*車椅子をご利用のお客様、足の不自由なお客様はその旨お書きください。

〈返信表面〉代表者のご住所、ご氏名をご記入ください。

〈返信裏面〉白紙

[返信]

受付完了後、随時ご返信いたします。返信はがきが入場証となり、当日の入場時にご提示いただきますので、必ずご持参ください。返信はがきをお持ちでない場合、入場をお断りする場合がございます。予めご了承くださいませ。

【お問合せ】 京都芸術劇場チケットセンター

TEL.075-791-8240（平日10時～17時）

映像担当：京都芸術大学企画広報課、倉田修次

協力：松竹株式会社、公益社団法人日本俳優協会、株式会社キノシ・オフィス

主催：京都芸術大学舞台芸術研究センター

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116 TEL.075-791-9437

感染対策へのご協力をお願いいたします



当劇場の
感染症対策



手洗い・消毒、マスク着用 など